



PREX NOW

No. 125

June
2003

財団法人 太平洋人材交流センター
Pacific Resource Exchange Center

contents

- page 1 ● ニュース&レポート 1
「上海市人事労務管理セミナー」を実施
- page 2 ● ニュース&レポート 2
中国の中小企業促進法と
投資環境セミナーを開催
- page 3 ● 企業訪問同行記
大徳食品株式会社を訪問
- page 4 ● ニュース&レポート 3
日本で経営の現場を実感!
- page 5 ● 特集【各国研修員からのメッセージ】
エル・サルバドル
アナ・アリシアさん
- page 6 ● PREXだより
事務局ニュース
6月実施の研修
コラム



ニュース & レポート ①

News & Report

「上海市人事労務管理セミナー」を実施

大阪の友好都市である上海市とは、従来から各分野においてさまざまな交流が行われている。

このたびPREXにおいても、上海国際人材交流協会が主催するマネジメント関連の訪日研修を数コース受託した。

上海国際人材交流協会は、上海市政府部門および各区、県、大手企業等の優秀な人材と中堅幹部を育成するために、世界各国に研修生を派遣している行政部門である。この団体



上海の中堅幹部行政官らが松下技術館を訪問。

から昨年、関西経済同友会を通じて、上海市の行政官、企業幹部を対象としたマネジメントセミナー実施に関する協力要請があり、その関係団体である上海市对外服务有限公司(国営企業)を窓口として協議を重ねた結果、研修経費を上海側が負担することを前提に平成15年度に4~5コース実施する運びとなった。今回はその初回として人事労務管理についての研修を実施した。

研修参加者は、通訳を除く全員が初めての来日であり、関西空港から降り立った彼らが好奇心に顔を輝かせている様子を見て、新鮮な気持ちにさせられた。ほぼ全員が上海の中堅幹部クラスの行政官であり、帰国後は昇進が約束されていることもあってか、とても規律正しく、友好的であった。

研修は、導入として神戸大学の石原先生より日本の経済発展について中国の事情と照らし合わせた講義をしていただいた後、今回の研修の中心的な講師である関西生産性本部の安田コンサルタントより、人事労務管理全般の紹介がなされた。コンサルタントの先生方による人事労務管理各論の講義と、上海でも有名な大企業での取り組みの紹介に加え、友好都市である大阪府への表敬訪問と大阪府での教育訓練についてご紹介いただく時間も設けた。研修の受講態度はみなさん極めて熱心で、どの講義でも質問が多く出た。土日は京都観光で清水寺参拝や友禅染体験、海遊館見学、難波でのショッピングなど、十分に関西を満喫された。大阪での研修は4月10日までで、最終日には評価会と閉講式を行った。評価会では「大変ためになった」とコメントをいただけた。また、上海での同窓会組織をつくることも実現に向けて動き出した。

5月以降の研修は、新型肺炎(SARS)の問題により実施時期が流動的になっているが、今後とも講師・訪問先のみなさまのご協力をいただきながら、実り多い研修を上海側に提供し、上海と大阪のより一層の絆を強める一助となれば幸いである。

—国際交流部 主事 酒井 明子

「上海市人事労務管理セミナー」

実施日時 3/31~4/10
研修参加者 中国・上海市公務員および
企業の幹部 20名
関係機関 上海市对外服务有限公司
内 容 人事労務管理

お世話になった企業・団体他(訪問順・敬称略)

神戸大学 国際文化学部 教授 石原享一氏、関西
生産性本部 コンサルティング部長 経営コンサル
タント 安田弘氏、NISHINO経営・技術研究所 西野
宗治氏、松下電器産業、大阪府、賃金人事システム
研究所 所長 松葉貞雄氏、サントリー、大阪ガス、ダイ
キン工業



中国の中小企業促進法と投資環境セミナーを開催

[国際協力事業団(JICA)中国中小企業振興コース]

3月27日、国際協力事業団(JICA)とPREXの共同主催で公開セミナー「中国の中小企業促進法と投資環境～日本の中小企業にとっての対中ビジネスへの影響～」を大阪国際会議場にて開催。パネリストは「中国中小企業振興コース」に参加した研修員。企業関係者など40名の方に聴講いただいた。

■ 公開セミナーにご協力いただいた団体(五十音順)
大阪商工会議所、海南商工会議所、関西経済連合会、京都商工会議所、京都府中小企業総合センター、吹田商工会議所、八尾商工会議所



公開セミナーにおける神戸大学石原教授の基調講演風景。



エヌケーケー・トリニクス株式会で家電リサイクル工場を見学。



日本の中小企業支援策と新規事業産業育成施策について近畿経済産業局で講義を受ける研修員。

開催の趣旨は、「受入研修コース参加の開発途上国研修員から、研修テーマに関連する自国の状況を発表する研修プログラムの一コマを、企業・関係団体の方々に一般公開し、各国ビジネス関連情報収集の機会を提供すること」であった。

< 公開セミナーの内容 >

セミナーは基調講演とパネルディスカッションで構成した。基調報告として、はじめに神戸大学国際文化学部教授石原享一氏に、「中国の中小企業促進法と対中ビジネスへの影響」と題し、今年1月に施行された中国の中小企業促進法が対中ビジネスに与える影響を講演頂いた。

続いて、研修員代表2名から、それぞれ「中国の投資環境」と「常州市における日本企業の対中国投資状況事例紹介の発表」があった。

これら基調講演を踏まえて、「対中ビジネスの現状と課題」と題して、パネルディスカッションを行った。コーディネータとして神戸大学の石原享一教授に、またコメントーターとして、大阪商工会議所特別経営指導員の大蔵玉太郎氏および、中国に進出

している日本の中小企業事例として、山一株式会社代表取締役社長の島田誠次郎氏にコメントを頂いた。

また10名の研修員は主にパネリストとして、会場からの質疑応答に参加した。

< 国際的人材交流の促進を目指して >

PREXの活動目的は二つある。開発途上国の発展に資するための人材育成と、関西の国際化のための人材育成事業を通じた国際的な人材交流促進である。

今回の公開セミナーは、企業関係者などにも参加いただく国際的な人材交流促進のための催しである。初めての試みであり、シナリオ作り、公開セミナーのPR、会場レイアウトの工夫など、定型の研修とは異なる新たな業務にも熱心に取り組んだ。

< 成功裡に開催 >

参加者数は我々の予測を上回り40人と盛況であった。

わが国企業関係者の中国のビジネス環境に対する関心の高さを改めて実感させられた。

開発途上国人材育成機関であるPREXにとって、今回のセミナー実施は、初

めての試みであったが成功裡に開催できた。参加頂いた皆様、および関係各位のご協力の賜物であり、皆さまに感謝を申し上げます。

—国際交流部 担当部長 深津 猛夫

「国際協力事業団(JICA) 中国中小企業振興コース」

実施日時 3/3～28
研修参加者 中国政府機関で企業経営のサポートに従事している者 10名
関係機関 国際協力事業団(JICA)
大阪国際センター
内 容 中国中小企業振興

お世話になった企業・団体他(訪問順・敬称略)

神戸大学 石原享一教授、神戸市外国語大学 近藤義晴教授、近畿経済産業局、太平洋商事、大阪府ITビジネスインキュベーター、大阪府立特許情報センター、エヌケーケー・トリニクス、三洋電機、ケイエスピー、三美テックス、東京商工会議所太田支部、産業技術総合研究所、龍谷大学 松岡憲司教授、大阪府中小企業信用保証協会、京都府中小企業総合センター、京都府異業種交流会連絡会議、サムコインターナショナル研究所、カンフジ、大阪商工会議所、大阪府商工労働部、浩陽会計社、日本技術士会近畿支部、サミトラボ



大徳食品株式会社を訪問

[仏語圏アフリカ中小企業政策セミナー]

会社を起す人とは、どんなことを考え、どういった哲学を持っているだろうか。

「仏語圏アフリカ中小企業政策セミナー」を行うにあたり、研修員側から経営者の方に「創業から経営まで」のお話を伺いたいという要望があがっていた。なかなか難しい要望だと思っていたが、幸い奈良県中小企業振興公社に上記の趣旨をご相談したところ、奈良県に本社を置く「大徳食品株式会社」をご紹介いただいた。

大徳食品は、主に「チルド食品(麺・だしスープ・総菜・米飯類)」を扱い、奈良県以外に北海道、栃木、静岡、三重に工場を持ち、幅広く企業活動を展開している会社である。

訪問の当日は、工場全体を見学させていただき、ご好意でお昼までごちそうになった。そして、場所を変え今度は乾代表取締役社長から大徳食品を起された頃から今の経営に関すること迄のお話を伺った。

会場には大徳食品の各種チルド食品がずらりと並べられ、研修員は扱っている商品の種類の多さにびっくりしていた。

乾社長からは、大手スーパーとの契約、コンビニエンスストアへの販路拡大など会社の成長の記録を説明いただくとともに、起業から規模拡大までのいろいろなご苦労、経営者として気にされていることを伺うことが出来た。

お話は「人との縁の大切さ」を感じさせる内容で、迫りに満ちた話に研修員も引き込まれるように話を聞いていた。特にコートジボアールから来た研修員は強い興



大徳食品株式会社 乾社長から熱心なご講義をいただいた。



大徳食品株式会社の方々和研修員。

味を引かれたようで社長に質問を連発、結局約束の時間を1時間も延長することになった。

一方的にお話をされるだけではなく、乾社長からも「今日の話をどう仕事に生かしていけるのですか?」と研修員に話を投げかけていただき、アフリカ・日本の経営者で数々の意見交換がなされた。会社の方にとっては、長時間時間をとられご迷惑な事だったと思うが、研修員にとっては刺激的なとてもいい機会となり、帰りのバスの中でも話は尽きることがなかった。

今回のような機会を設けていただけた大徳食品、そして企業をご紹介いただいた奈良県中小企業振興公社には研修員に代わり、心よりのお礼を申し上げたい。

この紙面では大徳食品を紹介させていただいたが、もちろん、今回のセミナーで訪

問させていただいた機関・講師の先生方にもそれぞれにすばらしいお話をいただくことができた。

今回の訪日が生かされ、近い将来アフリカで幅広い、また新しい視点の活動が展開させることを切に希望している。

—国際交流部 関野 史湖

大徳食品株式会社

明治40年に初代の乾徳治氏が米穀・薪炭の大徳商店として創業され、昭和50年には現社長乾昭夫氏が和歌山県に株式会社を設立。昭和63年に本社工場及び配送センターを和歌山県和歌山市昭工業団地に建設されるなど順調に事業を拡大。平成4年には栃木県に大徳株式会社を設立し、その後、札幌市、三重県、静岡県に次々と工場を展開。「挑戦・失敗をおそれずベストを尽くそう。創造・夢を描こうそして実現しよう。信頼・誠意をもって本音で行動しよう」を社訓とし、『おいしさ心をこめて』ヒット商品を生み出している。



関東職業能力促進センターにて電気回路作成教室を見学。実習内容を説明いただいた。

「仏語圏アフリカ中小企業政策セミナー」

実施日時 2/10～28
研修参加者 中小企業政策を担当する省庁の幹部行政官、および中小企業を営営する民間団体の幹部職員 計10名
【参加国】ブルキナファソ、コートジボアール、マリ、ニジェール、セネガル
関係機関 国際協力事業団(JICA) 大阪国際センター
内 容 中小企業振興施策紹介

お世話になった企業・団体他(訪問順・敬称略)

龍谷大学 経済学部 大林教授、大阪市立大学 経済研究所 植田助教授、阪南大学 大槻学長、神戸大学 大学院 経営学研究科 忽那助教授、ワールドトレードセンター大阪、国民生活金融公庫、中小企業庁、中小企業総合事業団、全国家庭用品卸商業協同組合、全国中小企業団体中央会、財団法人中小企業異業種交流財団、雇用・能力開発機構関東職業能力開発促進センター、先端科学技術インキュベーションセンター、財団法人奈良県中小企業振興公社、大徳食品、奈良県工業技術センター、奈良豊澤酒造、財団法人関西情報・産業活性化センター、ヤクルト本社工場



日本で経営の現場を実感！

[カザフスタン・ウズベキスタン日本センター「ビジネスコース」受入研修]

PREXは日本センター関連事業の第一弾として3月18日から約3週間にわたり、カザフスタン・ウズベキスタン日本センター「ビジネスコース」受入研修を実施した。日本センターはJICAの「日本の顔の見える」協力の推進という考えのもとにベトナム、ラオス、カザフスタン、ウズベキスタン、モンゴルに設立されており、企業経営やマーケティング等に関する講義が行われ、日本の国際協力事業を現地の人々にアピールする機関としても重要な役割を果たしている。

ここでごく簡単ではあるがそれぞれの国を紹介。まずカザフスタン。国土は日本の約7倍で、旧ソ連邦の中ではロシアに次いで2番目の大きさ。人口は1,484万人で首都はアスタナ。主要産業は鉱業、農業である。一方、ウズベキスタンの国土は日本の約1.2倍。人口は2,470万人で首都はタシケント。綿花生産が主な産業としてあげられ、その輸出はアメリカに次いで第2位である。

今回来日したのはカザフスタン、ウズベキスタン日本センターでビジネスコースを受

講した中から選抜された方々と現地日本センタースタッフである。これらJICAの日本センター関連の研修の実施はPREXにとって初めてであったこと、研修員のバックグラウンドがそれぞれ違うことなどから、研修内容を考える際には苦労した。結果的にはテーマをあまり絞りすぎず、現地日本センターで学んだ理論をより実践的なものとするため、企業経営についての講義、現場視察、企業経営者との意見交換などを盛り込み、比較的視察色の濃い内容構成とした。

研修員の平均年齢は28歳。大学講師、マーケティングコンサルタント、国家公務員、大学院生といった職種でとにかくエネルギー！活気あふれる雰囲気にもまれ、講義中も質問多数。学べるものはすべて学びとる！という姿勢。(株)サラヤに訪問させて頂いたときには、同社のカザフスタン、ロシア出身の研究員のお二人と意見交換する機会に恵まれロシア語での会話に花が咲いた。それぞれの見学・講義終了時

には担当くださった方・先生方に研修員より自国からの土産とそれぞれの国に関する情報をまとめたパンフレットが送られ、是非自分たちの国にも日本企業の進出を！と呼びかけていた。

研修担当者としては恥ずかしい限りなのだが、以前はカザフスタン、ウズベキスタン両国のことをほとんど知らず、地図をめぐり、資料に目を通し、僅かではあったが情報を頭の中に詰め込んだ。ロシア語もあまり耳にしたことが無く意味も全くわからなかったが、3週間同行しているうちにその音の美しい響きの虜になってしまった。

大陸の国出身の研修員は情に厚く、人なつこく、そして礼儀正しい方々ばかりであった。彼らのはるか遠い日本の地で3週間にわたり企業訪問・講義を通して得たものは現地日本センターで習得したものをより一層実用的なものとし、今後それぞれが活躍する場で活かされるであろうと確信している。最後になりましたが、お忙しい中貴重な時間を割いてご講義くださった先生方、訪問させて頂いた企業様、本当に有難うございました。

—国際交流部 山本 春江



ソニーミュージアム見学。ペット型ロボット「アイボ」にビデオを回す研修員達。ソニー発足から現在までの発展の歴史を学ぶ訪問となった。



金属化工業の中小企業で構成される東大阪の「HITグループ」。そのメンバー企業である(株)大阪工作所を訪問。ニッチ市場を目指す製品開発やグループ内での取り組みについて意見交換を行った。



(株)ケー・ジー・ティー訪問。PREX OBの岡氏に「人事給与制度」について講義いただいた。左端が筆者、山本。



サントリー武蔵野ビール工場を見学。環境問題への取り組みの説明に熱心にメモを取る研修員。

カザフスタン・ウズベキスタン日本センター「ビジネスコース」受入研修

実施日時	3/18～4/8
研修参加者	カザフスタン・ウズベキスタン日本センターで実施された各種ビジネスコースの成績優秀者、日本センタースタッフ計7名
関係機関	国際協力事業団(JICA) 大阪国際センター
内 容	現地日本センターで学んだ理論をより実践的なものとするため 企業経営についての講義、現場視察、 企業経営者との意見交換など

お世話になった企業・団体他(訪問順・敬称略)

クリエイション 内海政嘉 代表取締役、新潟経営大学
イワン・ツェリツェフ教授、キュービー、ダイハツ工業、
東アソシエイツ、ケー・ジー・ティー、東京証券取引所、
サントリー、ソニー、大阪経済法科大学 経済学部 鹿
島啓助教授、関西学院大学 商学部 山本昭二教授、
京セラ、松栄堂、サラヤ、HITグループ、大阪工作所



エル・サルバドル
アナ・アリシアさん

エル・サルバドル経済省競合情報研究職・研究員

2002年度「日本市場マーケティングセミナー」に参加

エル・サルバドルと国際協力

人材開発はあらゆる活動にとって重要であるが、その目的は、情報、知識及び技能を促進するものでなければならない。そして外国とのパートナーシップと継続的で革新的なトレーニングが必要だと思う。

エル・サルバドルでも、国際化の中で競争力をつけるために、技術教育は重要視されており、政府機関で働く全ての者には、技能を開発し最大限に発揮できるように勉学の機会が与えられている。この国が目的とすることを達成できるように人材は育成されつづけるだろう。

国際協力には、開発途上国の政府職員の教育という協力がある。この協力は、国際的な機関の考え方、先進国に関する情報を得るためのすばらしい機会となり、意義深い。その意味で、日本の人材開発に関する国際協力は、重要なものだと思う。私の意見では、日本は世界の中でも積極的に国際協力を行っている国だと思う。国際協力事業団（JICA）やPREXを通じての国際協力は、日本文化を理解し、どわけ日本人がいかに自分たちの国を発展させてきたかを見、学ぶ機会であった。それはわが国にとって有益である。

わが国の人材教育に関する二国間及び多国間の国際協力について言えば、去年は全部で305件の海外奨学金が取得された。その大部分は短期的なものであるが、私立及び公立の機関・教育機関の専門家、NGOや専門家協会の職員などがその対象であった。



二国間の貿易推進を目指して

PREXが実施した上記のセミナーに参加して、日本市場について直接学び、「エル・サルバドルから日本市場へいかに輸出するか」について重要な情報を得ることができた。文化、行動、品質管理の高い基準など、エル・サルバドルとかなりの違いがあるので、事前の市場調査なく日本の市場へ参入することはできないことがよくわかった。また、「ある特定の製品が日本市場へ参入するための市場情報をどこに求めたらいいか」という点も学んだと思う。私はエル・サルバドルが「冷凍オクラ」を日本へ輸出するというテーマで研修に取り組んだが、いくつかの具体的な計画を作ることができた。

「日本市場マーケティングセミナー」では多くの知識を得たが、経済省の競合情報課の一員として、エル・サルバドルと日本の二国間の貿易を強力に推進したいと考えている。エル・サルバドルの中小企業に正しい情報を提供し、適切なサービスを行いたい。さらに、この研修で日本への輸出競争に打ち勝つ戦略をいかに改善したらいいかというヒントを得たので、活かしていきたい。

最後に、特にすぐれたセミナーの構成、参加者への格別の配慮及び日本に滞在中に味わった親切さと友情に関してこの研修に関わったすべての人と機関、どわけPREXに対して深い感謝の意を伝えたい。

事務局
ニュース

「中小企業」勉強会を開催

4月22日15:00～17:00、PREX会議室において、クリエイション代表取締役 内海政嘉氏を講師に中小企業についての局内勉強会を行った。

「PREX NOW」メール配信のお知らせ

機関紙「PREX NOW」を電子メール(PDFデータ)で毎月受信できます。郵送からメール配信に変更希望の方は、ホームページから登録ください。
URL: <http://www.prex-hrd.or.jp>



6月実施の研修

■「中小企業政策セミナー」を実施

期 間 5/19～6/20

参加者 マレーシア・パキスタン・オマーン・シリア・サウジアラビア・ジンバブエ・ナイジェリア・ジブチの中小企業の振興に関する業務に従事している政府職員計9名

内 容 中小企業振興

■「キルギス国別特設研修」を実施

期 間 5/26～6/7

参加者 キルギス共和国貿易産業省 副大臣、国際協力・WTO部 部長、CIS・中国貿易経済協力部 部長

内 容 市場経済化促進

■「メキシコ中小企業振興政策セミナー」を実施

期 間 6/30～7/25

参加者 メキシコの中小企業の振興に関する業務に従事している政府職員計8名

内 容 中小企業振興

「piaNPO」紹介

PREXは、4月14日より事務所を大阪市港区築港の「piaNPO」に移転しました。

「pia NPO」は、アジア初の大規模な国際交流・国際協力NPO(非営利組織)の拠点施設で、21世紀を担う国際人の育成、未来を拓く新たなNPO事業の創造、NPO活動の支援、国際性にあふれる豊かなコミュニティづくりを目指しています。NGO/NPO、政府機関、国際機関の国際交流・国際協力の情報を一堂に集め、国際交流・国際協力の歴史や取り組み、現状などの幅広い情報も現物を交えて展示しているインフォメーションセンターもありますの

で、皆さんお立ち寄りください。PREXの他に以下のような入居団体があります。(順不同)

- (特活)関西国際交流団体協議会
- (特活)国際社会貢献センター
- (特活)大阪環境カウンセラー協会
- A・O・U・Aアジア海洋・都市・建築研究会
- (特活)エルダーホステル協会
- (特活)オアシス

- 大阪日豪協会
- (特活)多文化共生センター・大阪
- 日本アフガニスタン復興協力ネットワーク
- (特活)遊塾(クラフト遊)
- 日本民際交流センター・ダルニーセンター関西
- (社)アムネスティ・インターナショナル日本
- (特活)大阪府日本中国友好協会
- 市民活動情報センター
- (特活)モンゴルパートナーシップ研究所

C O L U M N

PREXは、2003年2月5日～3月31日まで、立命館大学の古谷さんをインターンシップ生として受入、途上国人材育成支援の具体的活動を体験してもらいました。

人との出会いを大切に

立命館大学国際関係学部3年生 古谷 綾さん

太平洋人材交流センター(PREX)でのインターンシップは、大学では学べない国際協力の実務の地道さや現実、また、研修に携わる人々の熱意をひしひしと感じた2カ月間でした。

主に、研修への同行管理の補助、事務所での書類作成やデータ入力など研修のための下準備と後処理を手伝わせていただき、PREXがどのように研修を実施しているのかを実際に体験することができました。

2カ月間の中で最も印象に残ったことは、多くの人との出会いです。スタッフの方は私の知らない社会常識や人間関係や、現実的な国際協力の視点を持っていましたし、企業や訪問先の方はそれぞれの仕事に信念と自信を持っていましたし、研修員の方は日本人の私にはない文化的背景を持った考え方を私に示してくれました。

また、私はインターンをさせていただくまで、国際協力とは「政府機関や国際協力機関やNGOだけがやっているもの」というイメージがあったのですが、PREXの研修の一つ一つが様々な分野の企業、技術者、地域の協力があってこそ成り立っているものだということに気づきました。そしてそれらのどんな仕事でも、支えているのは「人」なのだ実感しました。

PREXでインターンを経験し、多くの人と出会い、それぞれ違う価値観と出会い、感じたことは、これからの大学生活、就職活動、そして一生において私の支えになってくれるでしょう。どのような場面でも、人との出会いを大切にすることを忘れず、自分の可能性を広げていきたいと思っています。

貴重な2カ月間にしてくださったPREXの皆さん、関係者や研修員の方々、本当にありがとうございました!!



「仏語圏アフリカ中小企業政策セミナー」の研修参加者と古谷さん(中央)